

台風 19 号による河川氾濫、停電等の災害について（報告）

信州大学医学部新生児学・療育学講座
長野県医療的ケア児等スーパーバイザー
亀井 智泉

1 事前対策と安否確認

- ・台風来襲の 2 日ほど前に人工呼吸器の業者からバッテリーの充電の助言、確認があった（長野市の児）。
- ・発災後の安否確認は、自治体からはなかった（長野市）。
- ・上田市では、市担当者による事前安否確認とコーディネートにより、基幹病院への緊急避難入院を行った。

2 発災後の対応（当事者の行動も含めて）

- ・松本市四賀地区で停電あり、15 時間の停電を人工呼吸器のバッテリーと自家発電 10 時間で乗り切ったとのこと。
- ・長野市の被災地のご家族から、13 日のお昼ごろから次々に LINE で無事の情報を得た。（人工呼吸器使用の 4 名のお子さん）
- ・児童発達支援センターの看護師さん（圏域の医ケア児等コーディネーター）とも患者さんの安否連絡を確認し合った。（看護師さんから日赤の天野先生とも共有。）
- ・長野市川中島に今年開設された「こすもけあくらぶ」さんからは「浸水被害等に合われた方々の受け入れ可能」との連絡もあった。
- ・長野市の小学校に通う医療的ケア（導尿）の必要な児が二人、避難指示の出た地域に居住のため、小学校に避難、普段からの備蓄で無事でした。避難中の医療的ケアも学校看護師が様子を見に行ってくれて不安なくこなせたとのこと。
- ・上小圏域からは 15 日、青木村の人工呼吸器使用のお子さんについて市役所が連絡、保護して信州上田医療センターに避難入院されたそうです。
- ・諏訪圏域では、長時間停電地域の児に安否確認したところ、相談支援専門員さんと訪問看護（＝レスパイト的定期的医療入院を引き受けてくれている病院）による個別支援チームになっており、チーム早期に安否確認された。
- ・佐久圏域については 15 日、福山先生が細谷先生に確認のお電話をしてくださいました。人工呼吸器のお子さんを一人入院で預かっています、というお返事をいただきました。

3 事前の備えについて

- ・備蓄は長野市の方を中心に、太陽光発電や避難用の荷物等、平時から各々で具体的に備えていた。

4 今後の課題等

- ・今回のように事前に予測できる場合は緊急避難入院・入所をできる場所を自宅近くと別地域にそれぞれほしいところ。
- ・長野市の患者さんは「レベル 3」の避難勧告：高齢者等避難の段階で、車で、数日は車内避難でも大丈夫なように備蓄を持ったうえで通いなれた福祉事業所や医療機関に「電源と丈夫で温かい建物」をもとめて避難させてもらうことにしたい、とご提案いただいた。そのための環境整備は今後の課題としたい。